

# プレースメントテスト

## 作文

Placement Examination  
Composition

プレースメントテスト ID \_\_\_\_\_

名 前 \_\_\_\_\_  
name

国 籍 \_\_\_\_\_  
nationality

### 注意

辞書や教科書、インターネットなどは絶対に使わないでください。もし、そのようなものを使うと、あなたの日本語能力を正しく判定できず、あなた自身の不利益につながります。

We ask that you not use dictionaries, textbooks or the internet when writing. If you use such materials, this test(composition) cannot reflect your Japanese level correctly, which will lead to your disadvantage.

### 提出方法

- ・この Word ファイルに書き込み、ファイルを下記のメールアドレスに送信してください。
- ・提出先アドレス : pt17sscp[at]cjl.c.osaka-u.ac.jp ([at]を@に変えてください)  
※件名は「プレースメント作文 (あなたの名前、国)」と記入してください。
- ・送信期限 : 2017 年 4 月 10 日まで

日本語日本文化教育センター

Center for Japanese Language and Culture

以下の質問 1～3 すべてについて、指示にしたがって書きなさい。

Follow the directions written in Q1~Q3 as follows. All of them are obligatory.

質問 1 (Q1)

「日本での留学生活について」100～200 字程度で書きなさい。

## 質問 2 (Q2)

次の文章を 200～400 字程度で要約しなさい。

1990 年代ごろから、日本の大学では、「文理融合」ということが進められてきた。従来は別々の領域と考えられていた人文・社会科学系の学問と自然科学・医学系の学問を一つのものとして研究・教育を推進しようとする考え方である。異なる学問にまたがるという意味で、「学際的」な研究とか教育とかと言われることもある。実際の動きとしては、各地の大学に「総合」とか「人間」とか「文理」などといった名前のついた学部や研究科が多数作られることになった。

この文理融合は、グローバルな動きでもあり、現在でも、日本はもちろんのこと世界的な規模で進められている。ただそれは必ずしも、全面的にうまくいっているとは言えないようである。現実を見ると、そのような文理融合型の研究をしている人はまだまだ少なく、多くの研究者は伝統的な領域の研究を続けているようである。しかもそのうちでもかなり多くの人々は、文理融合ということに否定的な目を向けているように感じられる。

確かに、これまでの伝統的な学問が現在のような形になったのには、それなりの理由があるはずだから、そう簡単に領域の範囲を変えるということは難しいかもしれない。しかし、現実の世界の変化に目を向けないでいることは、研究と現実がかけ離れていくことになり、結局は学問自体の豊かさをそこなってしまうだろう。私たちの生きている時代は、これまでにないほど、人文・社会科学と自然科学の融合した問題にあふれているのである。

たとえば、倫理学や法学について考えてみよう。20 世紀の終わりごろ、羊のクローンが初めて作られた。ではヒトのクローンを作ることは倫理的に許されるのだろうか。許されないとすれば、どこまでが許される行為で、どこからが許されないことなのか。法律はそれをどのように制限すべきなのか。これらについて考えるには、クローン技術についての相当に専門的な知識が必要であり、それは従来の研究の蓄積からだけでは解決できないことだろう。最近では自動車の自動運転技術が開発されているが、それを認めるべきなのかどうか、自動車が事故を起こしたときには誰が責任を負うべきなのか、多数の問題がある。それに答えるためには、法学の知識だけでは不十分であり、技術によって何が可能なのかということ、よく知っている必要があるのである。

上に挙げた例はいずれも技術の進歩に対してブレーキをかけるようなものに見えるかもしれないが、文理の融合によって得られるものはそれだけではない。

文系の分野から見ると、これまでの研究の成果から、効果的であることがはっきりしているものの、あまりにもコストがかかるために非現実的だと思われてきたことがある。それが技術の進歩で容易に行えるようになってきているものがあるのである。たとえばすべての政策に有権者が直接かかわることのできる直接民主制である。インターネットの普及によって、従来では考えられないような低コストで実現可能になっている。もちろん、そもそも直接民主制という制度は真に望ましい政治形態ではない、と考える人は多い。しかしかつては不可能と思われていたことが、今はそうではない、ということは重要なのではないかと思う。ほかにも、言語の学習などでも、コンピューターを使った発音のチェック

が可能になるなどということは、一昔前までは想像もできなかったことである。

一方理系の分野が文系の知見によって豊かになる場面というのも、いくつも挙げることができる。スティーブ・ジョブズが新しい OS を作る時、大学の教室で学んだカリグラフィーの知識にもとづいて美しい書体を取り入れた、というのは有名なエピソードであろう。一見何の関係もないように思われたソフトウェア工学とカリグラフィーの結びつきがなければ、私たちの使っているコンピューターは今ほど美しくなかったかもしれないのである。思いつくままに紹介すれば、秋田新幹線をデザインした奥山清行は、その内外装を、列車の走っている地域の歴史や伝統に関わりをもたせたものとした。新幹線のような最先端の技術と、歴史や伝統といった最も文化的なものが融合しているところは、実に面白いと思う。ほかには、メルセデス・ベンツの最近の自動車には、ライトを消すスイッチがついていない。すべて機械が自動で判断して、必要なときにライトをつけるようになっているのである。人間は、どんなに注意しても必ず、つけたり消したりを忘れてしまうことがある。だから安全のためには、消すことができないようにする方が確実なのだ。彼らの自動車づくりには、そのような人間の研究に基づいた思想があるとされている。

もちろん、ここまで挙げてきた例は、あくまでも少数の実例にすぎない。現実の世界は「文系世界」と「理系世界」に分かれているわけではない。だから私たちをとりまくその複雑な現実世界について少しでも理解するためには、私たちは常に、どのような考え方が最も有効かということを探し続けなくてはならないだろう。とはいえ、それは従来の研究の方法や枠組みを一切否定しようということではない。新しい飛躍は、古い伝統の積み重ねの上にあって初めて成功するもののようにも思える。伝統への尊重と、新しい領域への挑戦と、両者のバランスを見極めることが、これまで以上に難しく、そして重要になるのではなかろうか。

質問3 (Q3)

課題文をふまえて、「文理融合」についてのあなたの意見を、400字～600字程度で書きなさい。なるべく良い面だけでなく悪い面についても含め、具体的な例を挙げるように注意すること。

